

2002年度(平成14年度)(第107回)学術評議員会記録

日 時：2002年(平成14年)3月30日(土)12:00～13:10

場 所：アクトシティ浜松 中ホ-ル

開会の辞

猪口庶務担当理事より定款施行細則第9条1項に基づき、本学術評議員会(学術評議員総数:458名)が委任状226通及び当日の出席者(124名)により、必要な1/5の定足数(92名)を越えて成立する旨報告があり、開会が宣せられた。

議長選出

猪口庶務担当理事より、山下昭会頭(浜松医大)を議長に推薦する旨提案があり、全員一致で承認された。ついで山下議長が副議長に佐藤康二副会頭(浜松医大)、書記に松崎秀夫助手(浜松医大)を指名し、承認された。

・議事記録署名人の選任

猪口庶務担当理事より、明坂年隆教授(朝日大)、曾爾彊教授(名古屋市大)を議事録署名人に推薦し、承認された。

・理事長報告

総会の開会にあたり、第107回日本解剖学会総会・全国学術集会を準備頂いた山下会頭、佐藤副会頭、第3回APICAを世話頂いた杉浦、藤本両教授に感謝する。ポストゲノム時代を迎え研究者を取り巻く環境も大きく変わりつつあるが、解剖学は基礎医学の中でも基礎となる領域であり、top-down型の研究のみならず自由な発想に基づくbottom-up型の研究も支援できるような環境をつくるとともに、追い風状態にある生命科学の研究費を解剖学会としても利用できるような努力してゆきたい。そして英文誌発刊、2001年に京都で開催される国際解剖学会議などを通して、欧米では弱体化しつつある形態科学において日本が国際的なリーダーシップを発揮してゆくことを望んでいる。解剖学教育、献体を利用した再生医学研究の面では、学会としても適切な選択、方向付けを示す必要があり、学会運営に関しては、財政的には厳しい状況にあるが、増加の一途をたどる名誉会員、学術評議員の問題など再編成の必要な部分も見受けられる。長引く不況など取り巻く環境は厳しいが、解剖学会の持つ潜在能力を十分発揮できるよう努力したいと思っているので常務理事、理事の先生方、学術評議員の皆さんの御協力を御願ひする次第である。

・報告事項

1. 庶務報告

猪口庶務担当理事より、配布資料(2002年度総会/学術評議員会資料 - 以下「総会/学術評議員会資料」と略記する - p1〔報告事項〕参照)に基づき下記の5件に関する報告が行われた。

会員報告

物故会員

教授就任による新学術評議員

2002年度版会員名簿の件

2002年度版名簿は有料予約制の冊子体を基本とすること。記載形式は従来と同じ所属別であり、個人住所、電話番号の掲載の可否は個人の自由選択とすること。一定数以上の希望があれば検索機能のついたCD-ROM版を製作すること等が報告された。

名誉会員・永年会員アンケート結果について

河野邦雄倫理委員会委員長より以下の報告があった。

倫理委員会報告

近年研究の多角化とともに再生医療の研究などに献体の利用が広がってきている。このような背景から「篤志献体の研究への利用について」審議を行ってきた。篤志献体の取扱に

については「死体解剖保存法」と「医学及び歯学の教育のための献体に関する法律」(以下「献体法」と略)の遵守が義務づけられているが、倫理委員会では「献体法」を優先規程ととらえ、以下の結論を得た。篤志献体による遺体の組織の一部などを研究に利用する場合は、献体者本人の事前の意志の確認を要し、研究の計画内容をできるだけ具体的に説明し、その研究への協力の意志のあることを書面で確認することが必要である。その際、故人の尊厳及びプライバシーの保護についても十分な配慮を必要とする。

2. 編集報告

解剖学雑誌和洋分離刊行の件

高田編集担当理事より、表記の件の進行状況について説明があった。英文誌(ASI)は第1号が完成し、4月上旬発送予定であり、和文誌はページ数を減らし同時に発刊される(ともに年4回発行)こと。和文誌の投稿規定が変更になったので、投稿の際は熟読の上御願いたいことなどが報告された。

3. 企画・渉外報告

第16回国際解剖学会議の件

河田企画・渉外担当理事より、資料(「総会/学術評議員会資料」p3~4参照)に基づいて概要の説明があったあと、井出組織委員長より、準備作業の経過について報告が行われた。学術会議との共催が決定し、それに伴って組織委員会構成、予算には今後修正が加えられること、4月下旬~5月上旬にfirst circularが発送されること、セッション名、シンポジウム外国人講演候補者などについては会員からの希望を募りたい旨等の説明があった。

審議事項

1. 東北支部理事補充選挙結果について

猪口庶務担当理事より、堀口理事の逝去に伴う東北支部理事の補充選挙の結果、近藤尚武教授(東北大)が最高得票を得て選出された旨報告があり、審議の結果承認された。

2. 新永年会員の件

猪口庶務担当理事より、資料(「総会/学術評議員会資料」p5.2.)に基づき、13名の新永年会員の推薦が諮られ、全員の推薦が承認された。

3. 申請による学術評議員の件

猪口庶務担当理事より、前日の理事会で承認された10名の申請者の名前とその所属大学が伝えられ、審議の結果承認とされた。

4. 2001年度事業及び業務監査報告の件

下記事項につき、猪口庶務担当理事()、高田編集担当理事()、河田企画・渉外担当理事()並びに各種委員会委員長()より配布資料(「総会/学術評議員会資料」p6~17)に基づき説明があり、いずれも異議なく承認された。

学術集会開催状況

会議開催状況

学会誌の刊行状況

委員会報告

研究の奨励及び業績の奨励

内外学術団体との協力並びに連絡

技術士認定

5. 2001年度決算および会計監査報告の件

「総会/学術評議員会資料」(p19~31)に基づき、山科会計担当理事より決算報告、引き続き内山安男監事より会計監査報告が行われ、いずれも異議なく承認された。

6. 2002 年度事業計画および予算の件

「総会/学術評議員会資料」(p33～35)に基づき、猪口庶務担当理事より 2002 年度事業計画の説明があり、引き続いて山科会計担当理事より 2002 年度予算についての説明が行われた。これらの案件はそれぞれ異議なく原案の通り承認された。

7. 名誉会員の推薦の件

猪口庶務担当理事より、当日配布の資料「名誉会員選出規約」改定案について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

8. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集會会頭承認の件

廣川理事長より、次期開催校として久留米大学医学部を推薦し、定款施行細則第 18 条の規定に基づいた承認を求めた。審議の結果、次期開催校は久留米大学とし、会頭には猪口哲夫教授を指名した。

閉会の辞

山下議長が閉会の辞を述べた。